

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ		平成14年3月14日		上杉 敬治		〒 761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町722-1 (電話) 087-815-3300		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1丁目22番23号 (電話) 087-823-2266		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		理学療法学科		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的		理学療法士における基本的な問題解決能力を身につけた人材を養成する						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		実力と情熱を備えた理学療法士の育成を目指した教育プログラム(理学療法士、中退率 4.7%)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		124 単位		64 単位	32 単位	22 単位	0 単位	6 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
160 人	86 人		0 人		0 %	5 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		30 人					
	■就職希望者数(D)		30 人					
	■就職者数(E)		26 人					
	■地元就職者数(F)		21 人					
	■就職率(E/D)		87 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		81 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		87 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者にに関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) 県立中央病院、香川大学医学部付属病院、滝宮総合病院、回生病院、キナシ大林病院、三宅リハビリテーション病院、高松協同病院、広瀬病院、高松南整形外科スポーツクリニック、森之宮病院、独立行政法人地域医療機能推進機構神戸中央病院						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月： 2024年12月 評価結果を掲載したホームページURL https://jcore.or.jp/accreditation/							
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/ark/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
うち必修授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B：単位数による算定)							
	総単位数				124 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				21 単位				
うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位				
うち必修単位数				124 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				21 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				21 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				5 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				6 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				6 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会の各委員からの意見等を参考に、4年制カリキュラムや教授方法及び内容を見直して企業が必要とする人材育成を行う。
- ・挨拶やコミュニケーションスキルなどの非認知能力を養い、基本的人格を備えた医療人を育成する。
- ・対象者の病態像をもとに臨床思考し問題点を導き出すとともに適切な作業療法が提供できる人材育成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事 長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	③
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	①
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	③
上杉 敬治	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	—
加藤 猛	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副校長兼 教務部長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	—
植野 英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副校長補 佐	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	—
山下 良二	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 課長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	—
村上 匡司	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 主任	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年7月18日 20:00～20:30

第2回 令和8年3月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①臨床実習の取り組み

- ・実習前後におけるOSCE(客観的臨床能力試験)を評価実習でも採用した。
- ・指導方法が変わり、現場での学生指導が減っている。
⇒実習後のフォローを学校で実施願いたい。⇒学会形式で担当ケースの症例発表を実施。

②国家試験の合格率アップ

- ・1、2年生への対応
「国試合格ゼミ」では、基礎医学を中心とし、国家試験問題の活用や補習により国家試験への意識づけを実施
- ・3年生の対応
毎月1回以上の国家試験対策委員会開催。
臨床実習期間はスマホアプリを活用し自己学習を実施。
模擬試験結果について、全体における自身の位置を可視化して目標設定する。同時に保護者とも連携する。

③退学者を出さない取り組み

- ・学校心理士によるカウンセリングや教員によるカウンセリング
- ・毎月の学科会議で情報共有し対策の話し合い
- ・学習面のサポート

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・各実習目標・目的を理解し臨床実習指導者の指導のもとに作業療法士としての資質を高める。
- ・実習施設と連携し個々の学生の問題点を的確に捉え個別的な対応を行う。
- ・リスク管理や医療事故防止への安全対策、業務管理を体験し医療人として作業療法士として業務理解につなげる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

※下記実習区分と概要等は、R6年度(3年制)の実績のため、最新の授業科目等の概要一覧と相違する

- ・1年次での見学実習(5日間)
 - ・2年次での評価実習Ⅰ(10日間)、評価実習Ⅱ(10日間)
 - ・3年次での総合臨床実習Ⅰ(40日間)、総合臨床実習Ⅱ(40日間)
- ①4月に臨床実習指導予定者を招いて臨床実習指導者会議をオンラインにて開催。
より多くの方が参加できるように開催日を2日とし、どちらか都合の良い日に参加いただいた。
会議は学校作成の「臨床実習教育の手引き」を基に各実習における目的、到達目標、課題等について説明と協議を行う。また、前年度の臨床実習における課題などを教員と実習施設側で共有する。
- ②各実習前の1週間を実習オリエンテーションと位置付けて、上記会議での指摘事項を踏まえ、心構えや実習目標、課題作成技術習得に向けた授業を実施。
総合臨床実習前後では、OSCE(客観的臨床能力試験)を実施して基本的な臨床技能検査のスキルを高める指導を実施して臨地実習先へ送り出している。
- ③各実習において担任等が電話にて実習状況を確認し、必要に応じて1回以上訪問し学生の実習状況の把握と助言指導を行う。
- ④実習終了後の1週間を実習報告会と位置づけ、実習の振り返り、学生間の情報共有、担任との個別面談で再確認を行う。
- ⑤学生の学修成果の評価は、実習指導者からの成績評価と上記②④の内容をもって行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
見学実習	・毎年実習開始前に臨床実習指導者会議を開催し、議事録を保管している。 ・全ての実習に際し、実習前、実習期間中は実習指導者と密な連携を取っている。 ・実習調整者1名を配置し、実習施設との調整、連携を行っている。	臨床現場の中で診療補助体験や対象者への問診、評価体験等を通じて、専門家としての適切な振る舞いや対応、実践的コミュニケーション能力を習得する	屋島総合病院 日本赤十字社 高松赤十字病院 高松画像診断クリニック 三条整形外科スポーツクリニック 医療法人社団 藤井外科胃腸科・整形外科 (38施設)
評価実習Ⅰ	・実習調整者1名を配置し、実習施設との調整、連携を行っている。	対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル(情報処理過程)を学ぶ	医療法人社団聖心会 阪本病院 香川県立中央病院 高松画像診断クリニック 日本赤十字社 高松赤十字病院 香川県済生会病院 (33施設)
評価実習Ⅱ	・臨床実習期間中は密に連絡を取り、必ず訪問して実習状況を確認し指導している。		医療法人社団つばさ 楓の森整形外科 香川医療生活協同組合 高松平和病院 香川医療生活協同組合 高松協同病院 総合病院回生病院 坂出聖マルチン病院 永生病院 (35施設)
総合臨床実習Ⅰ	・臨床実習指導者との直接的な調整が必要な場合は随時訪問し、指導方法の連携を行っている。	評価実習で経験した認知的スキルのトレーニングをさらに積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構造化を学ぶ。また、この過程を通じて、学生は認知領域スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める	医療法人社団聖心会 阪本病院 医療法人社団 東高松クリニック 香川医療生活協同組合 高松協同病院 医療法人社団研宣会 広瀬病院 国立大学法人 香川大学医学部附属病院 (32施設)
総合臨床実習Ⅱ	・専任教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況を確認し指導している。		香川県立白鳥病院 医療法人社団つばさ 楓の森整形外科 医療法人社団 東高松クリニック 香川医療生活協同組合 高松協同病院 香川大学医学部附属病院 (35施設)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ①本学において企画し実施する研修は、受講必須研修と任意選択研修に分ける。
- ②受講必須研修は、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上や学校運営・教育マネジメント等に関する専門能力の修得・向上を目的として、本学の教員として必ず修得しなければならない。
- ③任意選択研修は、指導力のさらなる向上や、より高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。その内容は毎年、見直しを行う 教員は毎年、最低1つは受講しなければならない。
- ④本学は、教員に必須研修、任意選択研修に加え、専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上を目的として、公益社団法人日本理学療法士協会、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会、一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団等の主催する研修や、専門団体等への研修を命ずることがある。
- ⑤教員は、年間15時間以上の研修を受講しなければならない。
- ⑥管理職は、教員に年間15時間以上の研修を受講させなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第16回スポーツ理学療法研修会	連携企業等:	香川県理学療法士会
期間:	令和7年1月12日(日)	対象:	理学療法士
内容	成長期野球選手における投球障害について		
研修名:	第30回香川県理学療法士学会	連携企業等:	香川県理学療法士会
期間:	令和7年2月2日(日)	対象:	理学療法士
内容	テーマ: Change the 理学療法～変えるものと変えないもの～		
研修名:	第95回日本衛生学会学術総会	連携企業等:	日本衛生学会
期間:	令和7年3月19日(水)～21日(金)	対象:	医療従事者
内容	衛生学の新たな創生-健康で豊かな未来のために-		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	香川県探究部会研修	連携企業等:	香川県高等学校教育研究会
期間:	令和6年6月28日(金)	対象:	教員
内容	非認知能力の育成と総合的な探究の時間 ―指導と評価のあり方―		
研修名:	穴吹学園教員研修	連携企業等:	学校法人穴吹学園
期間:	令和7年7月14日(月)	対象:	教員
内容	教育の質向上「学習評価セミナー」		
研修名:	非認知能力養成研修	連携企業等:	学校法人穴吹学園
期間:	令和7年8月18日(月)	対象:	教員
内容	学生の意識づけを高める「見取り」について		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： 第20回日本ヒートアイランド学会全国大会	連携企業等：日本ヒートアイランド学会	
期間： 令和7年9月19日(金)～21日(日)	対象：研究者・行政・自治体	
内容 熱中症対策～香川県の現場からの声～		
研修名： 第53回四国理学療法士学会	連携企業等：香川県理学療法士会	
期間： 令和7年11月29日(土)・30日(日)	対象：理学療法士	
内容 理学療法の深化と進化		
研修名： 第31回香川県理学療法士学会	連携企業等：香川県理学療法士会	
期間： 令和8年2月8日(日)	対象：理学療法士	
内容 Next Frontier-理学療法士の未来を創る挑戦		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： 香川県探究部会研修	連携企業等：香川県高等学校教育研究会	
期間： 未定	対象：教員	
内容 未定		
研修名： 穴吹学園教員研修	連携企業等：学校法人穴吹学園	
期間： 未定	対象：教員	
内容 教育の質向上		
研修名： 非認知能力養成研修	連携企業等：学校法人穴吹学園	
期間： 未定	対象：教員	
内容 未定		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ・関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける。
- ・自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する。
- ・結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目的、人材育成像は定められていますか
(2)学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3)教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定さ
(4)学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5)学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6)教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されています
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8)財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っています
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・SNSなどを活用して本校理学療法学科の魅力を広くアピールする。
- ・各実習目標・目的を理解し臨床実習指導者の指導のもとに理学療法士としての資質を高める。
- ・実習施設と連携し個々の学生の問題点を的確に捉え個別的な対応を行う。
- ・リスク管理や医療事故防止への安全対策、業務管理を体験し医療人として理学療法士として業務理解につなげる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	企業等委員
藤井 保貴	一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	職能団体
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	職能団体
田岡 知代	医療法人社団新進会 おさか脳神経外科病院 リ ハビリテーション室長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	企業等委員
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	企業等委員
中川 弘一	香川県立香川中央高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	教育機関
平尾 浩一郎	香川県立丸亀城西高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	教育機関
亀山 健太	穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	卒業生
松下 昌明	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 保護者会 支部長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	保護者会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/>

公表時期: 令和7年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

■継続的な教育の質の向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下に定める

- ・教育に関わる情報について原則、公開する。
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供する。
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする。
- ・統計的な情報については算定方法など、根拠となる情報も同時に提供する。
- ・個人情報の取り扱いに留意し、個人が特定できない情報提供とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3)教職員	教職員数、教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等への取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照法、収支報告書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.anabuki-college.net/ark/>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			心理学	心理学の基礎的知識に触れることを通して、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対し、多角的な視点からの思考を学ぶ	1 前	15	2	○			○			○	
2	○			情報科学	「情報」の意味および価値を理解すると共に、一般情報のデジタル化、デジタル化された情報をＩＴを使って情報活用技術全般の基礎を学ぶ	1 前	30	1		○		○		○		
3	○			生化学	生体内での生命現象を分子レベル、タンパク質や遺伝子がどのように制御されているのかを学ぶ。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める	1 前	15	2	○			○			○	
4	○			統計学	臨床や研究に必要な統計知識を身に付ける。統計学の知識を有した状態で論文抄読が可能となり、自身も統計学を利用してデータ分析ができる	1 前	15	2	○			○		○		
5	○			人間工学	立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける	2 前	30	1		○		○		○		
6	○			物理学	理学療法の内容と物理学との知識を融合する。また、国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
7	○			健康科学	「健康」の視点から現代社会の抱える問題と生涯にわたる運動の必要性を理解する	1 前	30	1	○			○		○		
8	○			医学英語	学療法士の臨床業務で使用頻度の高い医学英語について、「意味を理解する」「スペルを正確に書ける」「医療職の共通言語として使用できる」ことを目指す	1 後	15	2	○			○		○		
9	○			人間育成学Ⅰ	医療人としての人間性、資質を培い、問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。また、理学療法評価の一部を経験し、基礎知識の必要性を意識する	1 前	15	2		○		○		○		
10	○			人間育成学Ⅱ	医療人としての人間性、資質を培う。問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。1年生への知識・技術の伝達を通し、自分のそれらのスキルアップを図る	2 前	15	2		○		○		○		
11	○			解剖運動学Ⅰ	身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける	1 前	30	1	○			○		○		

12	○		解剖運動学Ⅱ	身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける	1 後	30	1	○			○		○		
13	○		体表面解剖学Ⅰ	上肢の体表面について、骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる	1 前	30	1			○	○			○	
14	○		体表面解剖学Ⅱ	体幹下肢の体表面について、骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる	1 後	30	1			○	○		○		
15	○		解剖生理学Ⅰ	神経系（中枢神経系）の構造（つくり）及び、機能（はたらき）について教授する	1 前	30	1	○			○		○		
16	○		解剖生理学Ⅱ	神経系の構造（つくり）および機能（はたらき）について学習する	1 後	30	1	○			○		○		
17	○		解剖生理学Ⅲ	内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する	1 前	30	1	○			○		○		
18	○		解剖生理学Ⅳ	内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する	1 前	30	1	○			○		○		
19	○		生理学演習	理学療法の基礎となる生理学的知識を、理論から実際の生体反応へ結びつける。演習を通じて、各種測定技術を習得し、臨床現場で即応できるスキルを身につける	1 後	15	2		○		○		○		
20	○		人間発達学	胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○		
21	○		解剖学実習	知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努める。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む	2 後	30	1			○	○	○	○		○
22	○		臨床心理学	臨床心理分野の疾患とその治療法を理解し、自分たちの職種で出来る各疾患の治療法について学ぶ	1 後	30	1	○			○			○	
23	○		一般臨床医学	代表的な疾患の概要や症状・治療について習得する	2 前	30	1	○			○		○		
24	○		リハビリテーション診断学	画像の種類や特徴などについて学び、得られる情報に気付くトレーニングを行う。また、得られた情報から考えられる病態を模索する	2 後	30	1	○			○		○		
25	○		リハビリテーション整形外科学	整形外科の一般的疾患について病態と治療に関して必要な知識を習得する	2 後	30	2	○			○		○		
26	○		リハビリテーション神経学Ⅰ	リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や症状を理解する	2 前	30	1	○			○		○		

27	○		リハビリテーション神経学Ⅱ	リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や症状を理解する	2後	30	1	○			○	○		
28	○		リハビリテーション内科学Ⅰ	リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患）について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する	2前	30	1	○			○	○		
29	○		リハビリテーション内科学Ⅱ	リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する	2後	30	1	○			○	○		
30	○		精神医学	精神医学の基礎について学び、国家試験に準拠した内容を十分に理解し、理学療法業務に活かす	2前	30	1	○			○	○		
31	○		小児科学	小児特有の疾患・先天性疾患について理解を深める	2前	30	1	○			○	○		
32	○		老年学	身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。また、老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める	1後	30	1	○			○	○		
33	○		病理学	病気の原因やメカニズムを解明し、病気によって生じる身体の変化を研究する医学の一分野である。病因の理解に必要な学問である	1後	30	1	○			○	○		
34	○		リハビリテーション栄養学・薬理学	栄養学・薬理学は、疾患や障害の有無にかかわらず、人間の日々の生活において大きな影響をもたらす。またスポーツ（運動）に必要な知識を取得する	2後	30	1	○			○	○		
35	○		リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と多職種連携、チームアプローチの重要性について学ぶ	1前	15	2	○			○	○		
36	○		理学療法概論	理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ	1後	15	2	○			○	○		
37	○		保健医療福祉論	リハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める	2前	30	1	○			○	○		
38	○		基礎理学療法Ⅰ	骨、関節、軟骨組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクスの総論を学ぶ	2前	30	1	○			○	○		
39	○		基礎理学療法Ⅱ	皮膚、靱帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能、治癒過程を学び、損傷されるメカニズム（バイオメカニクス）を学ぶ	2前	30	1	○			○	○		
40	○		日常生活活動学	日常生活活動（ADL）の概念と範囲、意義を学ぶ	2前	30	1	○			○	○		
41	○		理学療法研究Ⅰ	文献検索の方法を学び、抄読の習慣化、文献検索能力を高める。研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む	1後	15	2		○		○	○		

42	○		理学療法研究 論Ⅱ	研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む	2 後	15	2		○		○		○		
43	○		理学療法研究 論Ⅲ	研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む 2年生が実施する研究や発表に対して査読し、アドバイスができる	3 後	15	2		○		○		○		
44	○		スポーツ科学 Ⅰ	スポーツ現場における論文の活用について学び、「視力」「筋力」「持久力」「瞬発力」「跳躍力」の5大基礎体力の測定方法を学修する	1 後	30	1	○			○		○		
45	○		スポーツ科学 Ⅱ	食事や身体組成と運動パフォーマンスとの関連について学修し、間欠的持久力の測定と評価、運動パフォーマンスとの関係、身体の生理学的応答について学ぶ	2 前	30	1	○			○		○		
46	○		スポーツ科学 Ⅲ	筋力の発揮やトレーニングにかかわる基本的知識を習得するとともに、BIODEXを用い筋力測定方法を学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
47	○		スポーツ科学 Ⅳ	運動負荷に伴う呼吸応答について基礎知識を習得するとともに、実際に呼気ガス分析装置にて計測し、原理や解釈について学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
48	○		理学療法総合 演習	国家試験合格に向けて、4年間の学習内容の復習を行う	4 後	15	2		○		○		○		
49	○		理学療法管理 学	総合臨床実習に出る前、就職活動をする前に、理学療法士として働くことの意義や内容、理学療法士の社会についてなどを理解する	3 後	15	2	○			○		○		
50	○		理学療法評価 学Ⅰ	理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な基本的身体機能検査法について学ぶ	1 後	30	1			○	○		○		
51	○		理学療法評価 学Ⅱ	理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な各種検査測定について学ぶ	2 前	30	2			○	○		○		
52	○		理学療法評価 学Ⅲ	各疾患についての基本的な評価を行うことができる	2 後	30	1			○	○		○		
53	○		理学療法評価 学演習	理学療法評価学Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を基に各疾患ごとの評価の組み立て、プロセスを学ぶ	3 前	30	1		○		○		○		
54	○		動作分析セ ミナー	動作分析の概要及び方法論を教授する。また、事例を通して臨床的思考と問題解決を学ぶ	2 後	30	1		○		○		○		
55	○		運動療法学	主要な障害の仕組みを学び、傷害に対する評価と方法を実践する	2 前	30	1		○		○		○		
56	○		物理療法学	物理療法の分類、各機器の特性、各種物理的刺激的の身体に対する反応を学び、実際に機器を使用することで、予測された効果や反応などを確認する	3 前	30	1		○		○		○		
57	○		義肢学	「切断」について。「義肢」の中でも特に「義足」についての基本的な知識、切断者の評価、運動療法などを学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		

58	○		装具学	「装具」の中でも特に「下肢装具」と「体幹装具」についての基礎的な知識の理解。「装具学」による治療・評価などの知識の理解	3 後	30	1	○			○		○		
59	○		パラスポーツ	障がい者スポーツ指導者としての必要な知識を学習する	2 後	30	1	○			○		○		
60	○		トレーニング理論	トレーニングに必要な理論を学び、実際の現場で使用する技術を身につける	3 後	30	1	○		△	○		○		
61	○		スポーツ傷害の理学療法	スポーツ傷害の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
62	○		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	主な下肢の骨折に対する理学療法評価並びに治療体系について学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
63	○		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	主な下肢整形外科疾患の理学療法評価並びに治療体系について学び、変性疾患を中心に一連の理学療法の流れについて学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
64	○		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	主な脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
65	○		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	脳血管障害による片麻痺について、疾患の概要及び理学療法の介入方法を学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
66	○		中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、などの主要な神経筋疾患について、疾患の概要及びリハビリテーションの方法を学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
67	○		内部障害の理学療法Ⅰ	呼吸器疾患における病態生理と理学療法の目的と実際について理解し、呼吸評価と理学療法の目的と効果を学習する	3 前	30	1	○			○		○		
68	○		内部障害の理学療法Ⅱ	主に虚血性心疾患における病態生理および治療の目的と流れを学習する	3 前	30	1	○			○		○		
69	○		内部障害の理学療法Ⅲ	各疾患の病態を理解する。また、生理学的知識に則り運動療法や予防方法などについて考察する	3 後	30	1	○			○		○		
70	○		発達障害の理学療法	小児期の特徴から発達障害の特徴及びその理学療法を理解する	2 後	30	1	○			○		○		
71	○		骨関節系理学療法演習	基本的な評価、運動療法を基に、疾患別（骨関節系）の運動療法の組み立てと実際の手技について学ぶ	3 後	30	1		○		○		○		
72	○		神経系理学療法演習	神経障害に対する理学療法の治療技術を学ぶ	3 後	30	1		○		○		○		

73	○		ペーパーペイ シメントセミ ナーⅠ	運動器疾患における病態把握のための評価 思考過程を画像所見や初期情報から導き出 し、一連の検査項目の選定と実施までの臨 床推論の能力を身につける	3 後	15	2		○		○		○					
74	○		ペーパーペイ シメントセミ ナーⅡ	脳血管障害における病態把握のための評価 思考過程を画像所見や初期情報から導き出 し、一連の検査項目の選定とプログラム立 案までの能力を身につける	3 後	15	2		○		○		○					
75	○		ペーパーペイ シメントセミ ナーⅢ	呼吸器疾患における病態把握のための評価 思考過程を画像所見や初期情報から導き出 し、一連の検査項目の選定と実施までの能 力を身に着ける	3 後	15	2		○		○		○					
76	○		理学療法セミ ナー	様々なジャンルで活動している理学療法士 から活動事例を伺い、異なる視点から理学 療法の職域の可能性を考える	4 前	15	2	△	○		○					○		
77	○		卒業研究	学生が自ら選定したテーマに基づき、研究 計画立案と文献検索、実施および論文作成 を行う	4 後	15	2	△	○		○		○					
78	○		地域理学療法 学	地域（在宅）で安心してその人らしい暮ら しができるよう支援し、地域住民がともに クラス体性づくりをするという視点を学ぶ	3 前	30	1	○			○		○					
79	○		生活環境学Ⅰ	患者や高齢者を取り巻く「環境」「社会資 源」「福祉用具」について学ぶ	2 後	15	2	○			○		○					
80	○		生活環境学Ⅱ	在宅生活における環境設定について、基本 的な知識と障害別の住環境整備を学ぶ	3 前	15	2	○			○		○					
81	○		見学実習	学校が連携している臨床経験5年以上の理 学療法士が勤務する医療施設または介護保 険サービス施設において、臨床実習指導者 の指導監督のもと実習を行う	1 後	45	1			○		○		○				
82	○		評価実習Ⅰ	理学療法士が勤務する医療施設又は介護保 険サービス施設において、臨床実習指導者 の指導監督のもと評価を中心とした実習を 行う	2 後	45	2			○		○		○				
83	○		評価実習Ⅱ	理学療法士が勤務する医療施設又は介護保 険サービス施設において、臨床実習指導者 の指導監督のもと評価を中心とした実習を 行う	3 後	45	2			○		○		○				
84	○		総合臨床実習 Ⅰ	臨床実習指導者講習会修了者である臨床実 習指導者の指導監督のもと実習を行う	4 前	45	8			○		○		○				
85	○		総合臨床実習 Ⅱ	臨床実習指導者講習会修了者である臨床実 習指導者の指導監督のもと実習を行う	4 前	45	8			○		○		○				
合計					85	科目	124 単位（単位時間）											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 取得単位124単位以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 理学療法士養成校指定条件		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ		平成14年3月14日		上杉 敬治		〒 761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町722-1 (電話) 087-815-3300																
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1丁目22番23号 (電話) 087-823-2266																
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度															
医療	医療専門課程		作業療法学科		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度															
学科の目的	作業療法士における基本的な問題解決能力を身につけた人材を養成する																					
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	対象者の思いを引き出し実現できる作業療法士の育成を目指した教育プログラム(作業療法士、中退率 2.3%)																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技													
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間													
		124 単位		84 単位	8 単位	30 単位	0 単位	2 単位														
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率																
100 人	44 人		0 人		0 %	2 %																
就職等の状況	■卒業者数(C)		23 人																			
	■就職希望者数(D)		20 人																			
	■就職者数(E)		19 人																			
	■地元就職者数(F)		18 人																			
	■就職率(E/D)		95 %																			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		95 %																			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		83 %																			
	■進学者数		0 人																			
	■その他																					
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有																					
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 2024年10月 評価結果を掲載したホームページURL https://jcore.or.jp/accreditation/																					
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/ark/																					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)																					
	<table><tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr></table>								総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間
総授業時数	単位時間																					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																					
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																					
うち必修授業時数	単位時間																					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																					
	(B: 単位数による算定)																					
	<table><tr><td>総単位数</td><td>124 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>25 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>124 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>25 単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>25 単位</td></tr></table>								総単位数	124 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	25 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位	うち必修単位数	124 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	25 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	25 単位
総単位数	124 単位																					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	25 単位																					
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位																					
うち必修単位数	124 単位																					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	25 単位																					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位																					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	25 単位																					
教員の属性(専任教員について記入)	<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>1 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>4 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>1 人</td></tr><tr><td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td>6 人</td></tr><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>6 人</td></tr></table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	6 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	6 人
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人																				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4 人																				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人																				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																				
	計	6 人																				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	6 人																					

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会の各委員からの意見等を参考に、4年制カリキュラムや教授方法及び内容を見直して企業が必要とする人材育成を行う。
- ・挨拶やコミュニケーションスキルなどの非認知能力を養い、基本的人格を備えた医療人を育成する。
- ・対象者の病態像をもとに臨床思考し問題点を導き出すとともに適切な作業療法が提供できる人材育成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	③
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	①
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	③
上杉 敬治	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	—
加藤 猛	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副校長兼教務部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	—
植野 英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副校長補佐	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	—
山下 良二	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年間)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年7月18日 20:30～21:00

第2回 令和8年3月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①国家試験合格率100%の継続

・1、2年生への対応

「国試合格ゼミ」では、基礎医学を中心とし、国家試験問題の活用や補習により国家試験への意識づけを実施

・3年生の対応

毎月1回以上の国家試験対策委員会開催。

臨床実習期間はスマホアプリを活用し自己学習を実施。

⇒実習指導者にも伝えるとともに一緒に活用することでコミュニケーションツールの一つとなる。

模擬試験結果について、全体における自身の位置を可視化して目標設定する。同時に保護者とも連携する。

②退学者を出さない取り組み

・学校心理士によるカウンセリングや教員によるカウンセリング

・毎月の学科会議で情報共有し対策の話し合い

・学習面のサポート⇒学生一人一人にあった計画と一緒に立てる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・各実習目標・目的を理解し臨床実習指導者の指導のもとに作業療法士としての資質を高める。
- ・実習施設と連携し個々の学生の問題点を的確に捉え個別的な対応を行う。
- ・リスク管理や医療事故防止への安全対策、業務管理を体験し医療人として作業療法士として業務理解につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

※下記実習区分と概要等は、R6年度（3年制）の実績のため、最新の授業科目等の概要一覧と相違する

- ・1年次での見学実習Ⅰ（5日間）、見学実習Ⅱ（5日間）
 - ・2年次での評価実習（15日間）
 - ・3年次での総合臨床実習Ⅰ（60日間）、総合臨床実習Ⅱ（60日間）
- ①4月に臨床実習指導予定者を招いて臨床実習指導者会議をオンラインにて開催。
より多くの方が参加できるように開催日を2日とし、いずれか都合の良い日に参加いただいた。
会議は学校作成の「実習の手引き」を基に各実習における目的、到達目標、課題等について説明と協議を行う。
また、前年度の臨床実習における課題などを教員と実習施設側で共有する。
- ②各実習前の1週間を実習オリエンテーションと位置付けて、上記会議での指摘事項を踏まえ、心構えや実習目標、課題作成技術習得に向けた授業を実施。
総合臨床実習前後では、OSCE（客観的臨床能力試験）を実施して基本的な臨床技能検査のスキルを高める指導を実施して臨地実習先へ送り出している。
- ③各実習において担任等が電話にて実習状況を確認し、必要に応じて1回以上訪問し学生の実習状況の把握と助言指導を行う。
- ④実習終了後の1週間を実習報告会と位置づけ、実習の振り返り、学生間の情報共有、担任との個別面談で再確認を行う。
- ⑤学生の学修成果の評価は、実習指導者からの成績評価と上記②④の内容をもって行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
見学実習Ⅰ	・毎年実習開始前に臨床実習指導者会議を開催し、議事録を保管している。 ・全ての実習に際し、実習前、実習期間中は実習指導者と密な連携を取っている。 ・実習調整者1名を配置し、実習施設との調整、連携を行っている。	1学年に行われる臨床場面での実習で、学生が作業療法士となるうえでその資質・適性の有無を判断する機会を持つために作業療法業務の部分的体験及び見学を行う。 Ⅰ・Ⅱのどちらかの期間で、通所リハビリ施設または訪問リハビリ施設での実習とする。	香川医療生活協同組合 高松協同病院 創心会 リハビリ倶楽部高松中央 医療法人春風会 榎村病院 一般財団法人 三宅医学研究所附属 三宅リハビリテーション病院（18施設）
見学実習Ⅱ	・臨床実習期間中は密に連絡を取り、必ず訪問して実習状況を確認し指導している。 ・臨床実習指導者との直接的な調整が必要な場合は随時訪問し、指導方法の連携を行っている。	2学年に行われる臨床現場での実習で、対象者の心身諸機能・日常生活等の生活面・対人交流等の社会面を把握する実習である。	独立行政法人地域医療機能推進機構 リトリン病院 創心会 リハビリ倶楽部高松中央 医療法人 西山記念会 MIRAI病院 医療法人社団 彰志会 介護老人保健施設 ポタラの森（11施設）
評価実習	・専任教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況を確認し指導している。	3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付ける。	医療法人社団 光風会 三光病院 香川医療生活協同組合 高松平和病院 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 香川県済生会病院 医療法人財団 博仁会 キナシ大林病院（14施設）
総合臨床実習Ⅰ			香川大学医学部附属病院 香川医療生活協同組合 高松協同病院 医療法人赤心会 赤沢病院 医療法人社団三和会 しおかぜ病院 医療法人社団三愛会 三船病院（19施設）
総合臨床実習Ⅱ			一般財団法人 三宅医学研究所附属 三宅リハビリテーション病院 医療法人赤心会 赤沢病院 医療法人社団三和会 しおかぜ病院 医療法人社団三愛会 三船病院 香川県厚生農業協同組合連合会 屋島総合病院（21施設）

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ① 本学において企画し実施する研修は、受講必須研修と任意選択研修に分ける。
- ② 受講必須研修は、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上や学校運営・教育マネジメント等に関する専門能力の修得・向上を目的として、本学の教員として必ず修得しなければならない。
- ③ 任意選択研修は、指導力のさらなる向上や、より高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。その内容は毎年、見直しを行う。教員は毎年、最低1つは受講しなければならない。
- ④ 本学は、教員に必須研修、任意選択研修に加え、専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上を目的として、一般社団法人日本作業療法士協会、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会、一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団等の主催する研修や、専門団体等への研修を命ずることがある。
- ⑤ 教員は、年間15時間以上の研修を受講しなければならない。
- ⑥ 管理職は、教員に年間15時間以上の研修を受講させなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第24回日本抗加齢医学会総会	連携企業等:	(一社)日本抗加齢医学会
期間:	令和6年5月31日(金)～6月2日(日)	対象:	医師、医療従事者ほか
内容	テーマ:実学創造 ～老化制御の一新紀元～		
研修名:	日本在宅医療連合学会 第6回地域フォーラム四国	連携企業等:	(一社)日本在宅医療連合学会
期間:	令和6年10月13日(日)・14日(月祝)	対象:	医療従事者
内容	青い国四国みんなでつながろう～安心・安全を育む地域創り・仲間創り～		
研修名:	第58回日本作業療法学会	連携企業等:	(一社)日本作業療法士協会
期間:	令和6年11月9日(土)・10日(日)	対象:	作業療法士
内容	作業療法の効果を最大化する知識・技術・環境を問う		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	香川県探究部会研修	連携企業等:	香川県高等学校教育研究会
期間:	令和6年6月28日(金)	対象:	教員
内容	非認知能力の育成と総合的な探究の時間 ―指導と評価のあり方―		
研修名:	穴吹学園教員研修	連携企業等:	学校法人穴吹学園
期間:	令和7年7月14日(月)	対象:	教員
内容	教育の質向上「学習評価セミナー」		
研修名:	非認知能力養成研修	連携企業等:	学校法人穴吹学園
期間:	令和7年8月18日(月)	対象:	教員
内容	学生の意識づけを高める「見取り」について		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第34回四国作業療法学会	連携企業等: (公社)愛媛県作業療法士会
期間:	令和7年9月13日(土)・14日(日)	対象: 作業療法士
内容	たいけん・けいけん・つながるけん	
研修名:	第59回日本作業療法学会	連携企業等: (一社)日本作業療法士協会
期間:	令和7年11月7日(金)～9日(日)	対象: 作業療法士
内容	作業療法の価値を高めるエビデンスの創出	
研修名:	第25回日本抗加齢医学会総会	連携企業等: (一社)日本抗加齢医学会
期間:	令和8年6月26日(金)～6月28日(日)	対象: 医師、医療従事者ほか
内容	『人新世』のアンチエイジング; 食事、運動、睡眠、美容による統合医療	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	香川県探究部会研修	連携企業等: 香川県高等学校教育研究会
期間:	未定	対象: 教員
内容	未定	
研修名:	穴吹学園教員研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	未定	対象: 教員
内容	教育の質向上	
研修名:	非認知能力養成研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	未定	対象: 教員
内容	未定	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける。
- ・自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する。
- ・結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、目的、人材育成像は定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定され
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されています
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っています
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・SNSなどを活用して本校作業療法学科の魅力を広くアピールする。
- ・各実習目標・目的を理解し臨床実習指導者の指導のもとに作業療法士としての資質を高める。
- ・実習施設と連携し個々の学生の問題点を的確に捉え個別の対応を行う。
- ・リスク管理や医療事故防止への安全対策、業務管理を体験し医療人として作業療法士として業務理解につなげる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 義人	医療法人社団 西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	企業等委員
藤井 保貴	一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	職能団体
樋本 英司	一般社団法人 香川県作業療法士会 理事	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	職能団体
田岡 知代	医療法人社団新進会 おさか脳神経外科病院 リ ハビリテーション室長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	企業等委員
中川 真人	介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	企業等委員
中川 弘一	香川県立香川中央高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	教育機関
平尾 浩一郎	香川県立丸亀城西高等学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	教育機関
亀山 健太	穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	卒業生
松下 昌明	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 保護者会 支部長	令和7年4月1日～令和8年3月 31日(1年間)	保護者会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/>

公表時期: 令和7年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

■継続的な教育の質の向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下に定める

- ・教育に関わる情報について原則、公開する。
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供する。
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする。
- ・統計的な情報については算定方法など、根拠となる情報も同時に提供する。
- ・個人情報の取り扱いに留意し、個人が特定できない情報提供とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3)教職員	教職員数、教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等への取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.anabuki-college.net/ark/>

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			心理学	心理学の基礎的知識に触れることを通して、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対し、多角的な視点からの思考を学ぶ	1 前	15	2	○			○			○	
2	○			情報科学	「情報」の意味および価値を理解すると共に、デジタル化された情報をITを使って有効な形態に加工し活用する情報活用技術全般の基礎を学ぶ	1 前	30	1		○		○		○		
3	○			社会学	社会の成り立ちに目を向け、作業療法士が直面する高齢社会や少子社会など様々な社会問題に目を向けて、改善の糸口を見つける	1 前	15	2	○			○			○	
4	○			コミュニケーション論演習	臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する	1 前	30	1		○		○	○	○		
5	○			外国語	英語、中国語、韓国語の日常会話と痛みなどの症状の訴えやその対応に関する会話はできるようにする	3 前	15	2	○			○			○	
6	○			健康学	健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようにする	1 後	30	1	○			○		○		
7	○			作業科学	作業療法士が焦点を当てる作業の特性を学び、作業について理解する。また、人一作業一環境の関係性について学ぶ	1 後	15	2	○			○		○		
8	○			キャリア形成学	生涯キャリアを築くため必要な外的・内的キャリアの視点を学び、キャリアを形成していく上で必要な技能を学ぶ	3 後	15	2	○			○			○	
9	○			統計学	統計の種類・手法・目的について学ぶ。作業療法に必要な統計手法について学ぶ	3 前	15	2	○			○		○		
10	○			解剖運動学概論	人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深める	1 前	15	1	○			○		○		
11	○			上肢解剖運動学	上肢の関節や運動学について、その構造と機能について学ぶ	1 前	15	1	○			○		○		

12	○		下肢体幹解剖運動学	下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについて学習する	1後	15	1	○			○		○		
13	○		解剖運動学演習	解剖学での知識に触診という技術をあわせて体表面上から身体を観察する力を養う	1後	30	1		○		○		○		
14	○		内臓学	内臓器の位置と構造および機能を理解し、その異常が生じるとどのような症状が生じるか学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
15	○		解剖学実習	人体の構造と機能の関連を学び、献体者への感謝と医療人としての倫理観を育む	2後	30	1	△		○	○	○	○		
16	○		生理学Ⅰ	ヒトの身体機能の基本原則を理解し、臨床医学の基盤となる知識を体系的に習得する。特に神経機能、運動、感覚、内分泌による調節について学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
17	○		生理学Ⅱ	感覚、血液と体液、循環、呼吸、内分泌、消化と吸収などの個々の機能と役割を理解する	1後	30	1	○			○		○		
18	○		生理学演習	生理学の基礎知識を実践的に応用し、身体機能の理解を深めることを目的とする	2前	30	1		○		○		○		
19	○		脳機能解剖学	脳の構造や各部位の機能、そしてこれらがどのように運動・感覚、認知機能に関連しているかを学ぶ	1後	30	1	○			○		○		
20	○		人間発達学	発達的一般原則、発達理論を学習し、胎児期から老年期に至るまでの、人間の身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ	1前	15	2	○			○		○		
21	○		病理学	細胞・組織レベルでの病的変化を学び、疾患の原因（病因）、発症機序（病態生理）、形態学的変化（病理組織像）を体系的に理解する	1後	15	2	○			○		○		
22	○		臨床心理学	臨床心理分野の疾患とその治療法を理解し、自分たちの職種で出来る各疾患の治療法について学ぶ	1後	30	1	○			○			○	
23	○		一般臨床医学	救命救急医療をはじめ、外科など医学一般的で代表的な疾患の概要・症状・治療について理解する	1後	15	2	○			○		○		
24	○		リハビリテーション栄養学・薬理学	作業療法業務に活かすための栄養に関する知識と薬物の効用や副作用などの知識を習得する。	2前	15	2	○			○		○		
25	○		内科学	リハビリテーションに関係深い内科系疾患について、疾患概念や病態および治療法について基本的な知識を習得する	2前	15	2	○			○		○		

26	○		整形外科Ⅰ	整形外科に関する代表的な疾患の病態、治療を理解する	2前	30	1	○			○	○		
27	○		整形外科Ⅱ	整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する	2後	30	1	○			○	○		
28	○		神経病学Ⅰ	神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に脳神経外科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する	2前	30	1	○			○	○		
29	○		神経病学Ⅱ	神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に神経内科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する	2後	30	1	○			○	○		
30	○		精神医学	精神症状や精神疾患など精神医学の基礎について学ぶ	1後	30	1	○			○	○		
31	○		老年学	身体面・精神面・社会面の観点から高齢者の理解を深め、廊下に伴って生じる障害や病態について理解を深める。高齢障害者における作業療法士の役割を考察する	2後	30	1	○			○	○		
32	○		リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ	1前	15	2	○			○	○		
33	○		保健医療福祉連携論	日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める	3後	15	2	○			○	○		
34	○		作業療法概論	作業療法に対する理解を深め、作業療法士に求められる役割を学ぶ	1前	15	2	○			○	○		
35	○		作業療法理論	代表的な作業療法理論の概要を学び、理論に基づいた評価や解釈の方法を理解し、治療に結び付けていく	3前	15	2	○			○	○		
36	○		基礎作業学	作業に関する基礎理論と分析を学び、体験学習も加え指導方法を検討していく	1後	30	1	○		△	○	○		
37	○		作業治療学実習Ⅰ	作業療法で用いられるアクティビティーを体験するといった自身の五感を通じた学びから、作業活動が身心に影響することを学ぶ	1後	30	1				○	○	○	
38	○		作業治療学実習Ⅱ	作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ	2前	30	1				○	○	○	
39	○		作業治療学実習Ⅲ	作業活動の理解と技術習得を通じて、治療への活用法を学ぶ	2後	30	1				○	○	○	○

40	○		作業療法管理学	作業療法業務に必要な法制度や診療報酬制度、各種法規について学ぶ。業務遂行に必要な職場管理、倫理、教育法について学ぶ。	3 後	15	2	○			○		○		
41	○		作業療法評価学概論	評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解し、面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する	1 後	30	1	○			○		○		
42	○		運動器作業療法評価学	運動器の疾患に関わる評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する	2 前	30	1			○	○		○		
43	○		神経筋作業療法評価学	中枢疾患や筋疾患に関与する評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する	2 前	30	1			○	○		○		
44	○		作業療法評価応用学	評価の選択、評価計画からICFへのまとめを行い、模擬的に対象者の全体像をとらえていく	2 後	30	1		○		○		○		
45	○		画像評価学	CTやMRIの画像についての基礎知識などを理解する。画像の読み取りと臨床への応用をつなげていく	3 前	30	1	○			○		○		
46	○		中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	脳血管疾患に対する作業療法の基本的視点を説明し、臨床像を捉えて作業療法アプローチまでの一連の過程を学ぶ	2 後	30	1	○			○		○		
47	○		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	難病、脊髄損傷その他の中枢性疾患に対する作業療法について学ぶ。また、ICFに基づき抽出した問題点解決に向けた治療、支援を学ぶ	3 前	30	1	○			○		○		
48	○		運動器疾患作業療法学Ⅰ	ハンドセラピーに関する知識、各疾患に対する治療法・予後管理法などについての基本的知識を学ぶ	2 後	30	1	○			○			○	
49	○		運動器疾患作業療法学Ⅱ	運動器疾患に対する作業療法の専門的知識と支援技術を習得する	3 前	30	1	○			○			○	
50	○		内部障害作業療法学	生活習慣との関連性が高く、対象者人口も多い心疾患や呼吸器疾患等対象者への生活指導を含めた作業療法を学ぶ。	2 後	30	1	○			○		○		
51	○		発達障害作業療法学Ⅰ	発達障害の作業療法を学ぶ基礎として、まず小児の正常発達について学び、脳性麻痺の臨床像、作業療法を学習する	2 後	30	1	○			○		○		
52	○		発達障害作業療法学Ⅱ	発達障害の各疾患を身体的・社会的・発達の側面から捉え、問題点を評価し、治療計画及び治療手段を学習する	3 前	30	1	○			○			○	
53	○		精神障害作業療法学概論	精神障害のリハビリテーションの流れを理解する。精神障害作業療法の構造と形態を学び、作業療法の目的と役割を理解する	2 前	30	1	○			○			○	
54	○		精神障害作業療法学Ⅰ	各精神疾患の作業療法について、その対応・治療について学び、臨床への応用の学びを深める	2 後	30	1	○			○			○	

55	○		精神障害作業療法学Ⅱ	国家試験過去問題等の事例を取り上げてグループ内で検討し、精神障害作業療法の対象者への作業療法サービス内容と基本的対応を身につける	3 前	30	1	○			○			○	
56	○		高齢期作業療法学	高齢者の特徴や環境を踏まえ、高齢障害者に対する作業療法について理解し、実践力を身につける	3 前	30	1	○			○		○		
57	○		生活支援学	生活行為に関連する、人一作業一環境の理解を深める。生活行為に対する評価方法を学び、観察力を養う	1 後	15	2	○			○		○		
58	○		生活支援学演習	生活行為の視点をもとにした観察力を養い、記載できる。評価法を理解し、実習でできるようにする	2 前	30	1	△	○		○		○		
59	○		生活行為向上マネジメント学	MTDLP(生活行為向上マネジメント)を用いた作業療法の考え方を身につける	3 前	15	2	○			○		○		
60	○		生活行為向上マネジメント学演習	評価実習で実際に行った評価について振り返り、症例発表を行う。臨床で実践している先生の実例から学ぶ	3 後	30	1		○		○			○	
61	○		義肢学	切断者とその家族が、安心かつ安全な日常生活が送れるように支援するための知識や技術を学ぶ	2 前	30	1	○			○		○		
62	○		装具学実習	適応疾患の知識を含め、装具の種類・装具療法を理解した上で、作成に必要な基礎知識を学ぶ	3 後	30	1	△		○	○		○		
63	○		ペーパーペイシェント	身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域および高齢期障害領域の事例検討	3 後	30	1		○		○		○		
64	○		作業療法研究論Ⅰ	研究法について知識を習得し、臨床実習や臨床業務について、その知識が活用できるようにする	3 後	15	2	○			○		○		
65	○		作業療法研究論Ⅱ	研究計画に基づき、調査、結果をまとめ、発表する	4 後	15	2	○	△		○	○	○		
66	○		動作分析学	生活行為における動作を観察・分析する	2 後	30	1	○	△		○		○		
67	○		パラスポーツ学	パラスポーツを通して健康の概念を理解し、作業療法士が対象者の健康増進、社会参加に関わる必要性を学ぶ。初級パラスポーツ指導員の取得を目指す	4 後	30	1	○			○		○		
68	○		スキルアップ専攻学Ⅰ	作業療法士が対象者の生活の質を高めるために活用できる周辺スキル（メイク、調理、音楽、空間、ICTなど）を体験的に学び、支援の幅を広げる	3 前	30	1	○			○			○	
69	○		スキルアップ専攻学Ⅱ	作業療法士が対象者の生活の質を高めるために活用できる周辺スキル（ビジネスマナー、動物との関り、美容技術など）を体験的に学び、支援の幅を広げる	3 後	30	1	○			○			○	

70	○		作業療法治療 応用学	身体や精神など各領域で行っているア プローチ方法や治療技術などを実戦形式で学 ぶ	4 後	30	1	○			○		○	
71	○		地域共生学Ⅰ	「地域共生社会」の理念と実践について学 び、多様な人々が共に暮らす社会のあり方 を探究する	1 前	30	1	○			○		○	
72	○		地域共生学Ⅱ	地域について調べ、地域の方と交流し、地 域の課題について考える	2 前	30	1	○	△		○	○	○	
73	○		住環境調整学	高齢者や障がい者をはじめとする多様な生 活者が、安全かつ快適に暮らせる住環境の あり方について学ぶ	3 前	30	1	○		△	○	○	○	
74	○		地域作業療法 学	地域社会での保健・医療・福祉について理 解し、作業療法を必要としている人により よい作業療法を提供できるようにする	3 前	30	1	○			○			○
75	○		福祉用具学	移動及び移乗関連用具・排泄関連用具・入 浴関連用具・コミュニケーション関連用 具・更衣や整容関連用具・食事関連用具・ 自助具について理解する	3 前	30	1	○			○			○
76	○		就労支援学	職業リハビリテーションの概念を学び、就 労支援に関連する制度や支援技術、各障害 に対する作業療法の流れを学ぶ	3 後	30	1	○			○		○	
77	○		見学実習	臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医 療施設又は介護保険サービス施設におい て、臨床実習指導者の指導監督のもと実習 を行う	1 後	45	1				○		○	○
78	○		評価実習Ⅰ	臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医 療施設又は介護保険サービス施設におい て、臨床実習指導者の指導監督のもと実習 を行う	2 後	45	4				○		○	○
79	○		評価実習Ⅱ	臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医 療施設又は介護保険サービス施設におい て、臨床実習指導者の指導監督のもと実習 を行う	3 後	45	4				○		○	○
80	○		総合臨床実習 Ⅰ	臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習 指導者）が勤務する医療施設において、臨 床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	4 前	45	8				○		○	○
81	○		総合臨床実習 Ⅱ	臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習 指導者）が勤務する医療施設において、臨 床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	4 前	45	8				○		○	○
合計				81 科目			124 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 取得単位124単位以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 作業療法士養成校指定条件		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。